

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人文京アカデミー	
施 設 名	響きの森文京公会堂（文京シビックホール）	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	7,250	(千円)
	公 演 事 業	0 (千円)
	人 材 養 成 事 業	1,223 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	6,027 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1				目標値	
				実績値	
2				目標値	
				実績値	

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	吹奏楽奏者養成プログラム※	①2020年8月～9月 ②2020年12月12日他 ③2020年10月24日	①中学生のための吹奏楽クリニック ②シエナ de アン・コン!～アンサンブルコンテスト～ ③吹奏楽3upプロジェクト ①～③講師・出演：シエナ・ウインド・オーケストラ	目標値	参加者数 ①100 ②162 ③100
		①文京区立中学校 ②小ホール他 ③文京シビックセンター内施設		実績値	参加者数 ①83 ②162 ③39
2	バレエ公演制作アートマネジメント講座（A：一般対象、B：跡見学園女子大学学生対象）※	中止	新型コロナウイルスの影響により中止	目標値	360 (30×6講座×2シリーズ)
		中止		実績値	中止

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム※	①2020年9月～12月 ②2020年10月13日他 ③④中止	①東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”動画配信 出演：松村秀明（指揮）他 ②小中学校出前コンサート 出演：太鼓芸能集団 鼓童、シエナ・ウインド・オーケストラ、東京フィルハーモニー交響楽団 ③【中止】アーティスト・イン・音楽室 ④【中止】文の京コミュニティコンサート	目標値	①635 ②1,580 ③80 ④20
		①配信 ②文京区立小中学校 ③④中止		実績値	①視聴回数 977 ②参加者数 1,626 ③④中止
2	バレエ普及啓発プログラム※	①2021年1月12日 ②2020年8月30日他 ③2020年9月19日他 ④～⑥中止	①幼稚園バレエワークショップ ②はじめてのバレエレッスン ①②講師：牧阿佐美バレエ団ダンサー ③バレエを楽しむ基礎知識講座、「眠れる森の美女」見どころ解説、「眠れる森の美女」公演鑑賞 講師：跡見学園女子大学准教授 川島京子 他 ④【中止】バレエエクササイズ入門 ⑤【中止】「指揮者が語る、バレエ音楽と指揮」 ⑥【中止】「眠れる森の美女」公演衣裳展	目標値	①20～50 ②120 ③30 ④40 ⑤150 ⑥300
		①文京区立幼稚園 ②③文京シビックセンター内施設 ④～⑥中止		実績値	①21 ②52 ③28 ④～⑥中止
3	文京シビックホール 20周年記念事業 文の京リーディングドラマ※	中止	新型コロナウイルスの影響により中止	目標値	1,722
		中止		実績値	中止

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

「地域の文化拠点として、地域の人たちが良質な文化芸術を気軽に楽しみ、自ら文化芸術に関わることができる場を提供し、新たな交流や創造の場となる」というホールのミッションに基づき、4つの芸術団体と提携を結んでいる特性を生かした事業を、人材養成事業と普及啓発事業合わせて5事業予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により2事業は中止となり、残りの3事業についてはプログラムの一部中止や内容変更を行い、以下のとおり実施した。

■吹奏楽奏者養成プログラム

吹奏楽コンテストや吹奏楽曲の発表会に利用され、多くの吹奏楽ファンや中学・高校の吹奏楽部員が集うホールである特性を考慮し、事業提携するシエナ・ウインド・オーケストラと協力し、吹奏楽演奏者養成を目的とした事業を実施した。なお感染症拡大防止のため、パーテーションを設置するなどの飛沫対策を講じ、一部内容変更を行った。

■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム

小ホール公演「東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”」は動画配信に切り替えて実施した。出演者同士の感染症対策のため、音楽劇をソロの歌に変更し、その他の予定していた演奏や楽器紹介は出演者の距離を保つ等の対策を講じて行った。

事業提携団体4団体による「小中学校出前コンサート」は、児童生徒が密になるのを避けるため、通常であれば1回公演のところを数回に分け、時間を短縮して開催する等の工夫をした。全6校を予定していたが、5校での開催となった。

■バレエ普及啓発プログラム

牧阿佐美バレエ団と事業提携しているホールの特性を生かし、子どもから大人まで様々な年代の地域の人々がバレエに興味を持ち、ホールに来場する機会となることを目指し事業を実施した。

「幼稚園バレエワークショップ」は区立幼稚園と協力し、年間1回継続的に実施しており、今年も予定どおり実施することができた。「はじめてのバレエレッスン」は感染症拡大防止のため、定員を当初予定の半分（15組→7組）にして実施した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

芸術団体と提携し地域に密着したホールとして、芸術団体が擁する「プロ」と地域の「人」を結びつける役割を果たした。

■吹奏楽奏者養成プログラム

「中学生のための吹奏楽クリニック」では学校での普段の指導にプラスして、プロの奏者からパートごとの細やかな指導を受けることにより、技術の向上を図ることができた。

■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム

「東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”」公演は中止となってしまったが、動画配信という形で子どもたちへプロの演奏者による本格的な音楽を届けることができた。

■バレエ普及啓発プログラム

質の高いプログラムを無料または安価で提供できたことで、バレエは敷居が高いという先入観を払拭し、バレエ公演の鑑賞につなげることができた。

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

■吹奏楽奏者養成プログラム

「中学生のための吹奏楽クリニック」

普段の部活指導では手の届かない部分を中心に技術指導を行うことができた。吹奏楽部顧問および生徒を対象にしたアンケートでは、指導内容についての満足度が顧問は4.5(5段階中)以上、生徒は2.9(3段階中)以上を達成した。

「シエナ de アン・コン! ~アンサンブルコンテスト~」

コンテストでは応募団体数目標の40団体に対し、56団体の応募があった。事前レッスンではコンテスト出場団体を対象にプロの演奏家が指導を行い、演奏技術のレベルアップを図ることができた。また、吹奏楽連盟主催のアンサンブルコンテスト地区大会における金賞獲得数について、目標の4団体に対し、3団体が金賞を獲得した。

「吹奏楽3UPプロジェクト」

「演奏お悩み相談」では演奏の悩みが解消したとの声を多くいただいた。吹奏楽部員、指導者、一般の演奏者、また、演奏から遠のいていたがこの機会に参加した方など、小学生から年配の方まで、幅広い層にアプローチすることができた。参加者数の目標が100名であったが、感染症予防のため「楽器体験コーナー」を中止とした影響で、楽器未経験者の参加がなくなり、参加者数は39名に留まった。

■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム

「東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”」

公演中止のため、当初指標としていた券売数やアンケート調査の数値が測定できなかった。なお、公演の代わりに行った動画配信の視聴回数は977回であった。動画ではオンライン上でも子どもが親しめるよう内容を工夫し、公演でおなじみの楽器紹介コーナーも実施するなど、楽器について楽しく学べる機会とした。

「小中学校出前コンサート」

学校や出演団体の協力を得て、予定していた計6校のうち、5校で実施することができ、子どもたちに一流の実演芸術を鑑賞できる機会を提供できた。先生へのアンケートによる満足度調査では、「生徒たちが全く飽きずに鑑賞できた」「子どもたちにも分かりやすい曲で集中できていた」と満足いただいた感想を得られた。

■バレエ普及啓発プログラム

「幼稚園バレエワークショップ」

実施園の先生から「簡単なものから難しいものに進んでいく流れや、音楽に合わせて子どもたちもバレエを感じられるプログラムで良かった」という評価を頂いた。

「はじめてのバレエレッスン」

定員を大幅に超える応募を集め(応募者数224名、受講者数52名)、親子でバレエに親しみを持つきっかけを提供できた。参加者へのアンケート結果は満足度4.8点(5点満点)を得られた。

「バレエを楽しむ基礎知識講座」

普段観客と接する機会のないダンサー・バレエミストレスを招き、公演鑑賞への期待を高めることができた。アンケート結果は満足度4.5点(5点満点)を得られた。

各事業ともに高評価を受け、バレエ公演(主催)の親子チケット(予定枚数終了)の購買にも結び付いた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業期間は当初 2020 年 5 月から 2021 年 2 月とし、実施時期の偏りが生じないよう、全体のバランスを考え計画した。加えて、各事業の特性を考慮し実施時期を設定したが、新型コロナウイルスの影響により中止や変更となったものもあり、各事業の結果は以下のとおりであった。

■吹奏楽奏者養成プログラム

「中学生のための吹奏楽クリニック」は東京都吹奏楽連盟コンクール直前の 7～8 月を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響による吹奏楽コンクールの中止、部活動の休止等もあり、開催時期は 8～9 月となった。「シエナ de アン・コン!～アンサンブルコンテスト～」は予定通り吹奏楽連盟のアンサンブルコンテスト地区大会前の 12 月に実施した。「吹奏楽 3UP プロジェクト」も予定通りの日程で開催したが、一番多くの参加者を見込んでいた楽器体験コーナーを感染症拡大防止のため中止した影響が大きく、参加者数が当初の予定を大きく下回る結果となった。

■バレエ公演制作アートマネジメント講座

ホールで開催するバレエ公演の時期に合わせ、9～10 月と 11～12 月に舞台制作現場体験や大学生を対象にした講座を予定したが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム

「東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”」は夏休みの子ども向け公演として 8 月に予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となったため、当初の公演スケジュールの期間に配信用の動画収録を行った。「小中学校出前コンサート」は学校との調整の結果、10～11 月に実施した。

■バレエ普及啓発プログラム

「幼稚園バレエワークショップ」は 9～2 月で予定し、実施園との調整の結果 1 月に実施した。「はじめてのバレエレッスン」は 6～2 月で予定し、講師であるバレエ団メンバーとの調整の結果、8 月と 11 月に開催した。「バレエを楽しむ基礎知識講座」は当初の予定通り、ホールで開催するバレエ公演の時期に合わせ 9～10 月に実施した。その他の「バレエエクササイズ入門」(5～6 月予定)、「指揮者が語る、バレエ音楽と指揮」(デヴィッド・ガルフォース出演 9 月予定)、「眠れる森の美女 衣装展」(8～9 月予定)は新型コロナウイルスの影響により中止となった。

■文京シビックホール 20 周年記念事業 文の京リーディングドラマ

6 月開催を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。

事業費について、人材養成事業では収入において「シエナ de アン・コン!～アンサンブルコンテスト～」の参加団体を当初の予定より減らしたため、参加費分が減収となった。支出は中止になった事業分の支出が無くなり、実施した事業についてはほぼ予定通りの結果となった。普及啓発事業では予定していた公演「東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”」「文の京リーディングドラマ」が中止となったため入場料収入が無く、大きな減収となった。支出については収録料の追加や公演キャンセル料の支払いが発生したが、公演自体が無くなったため、支出額は当初の予定を大きく下回った。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

当ホールでは管弦楽（東京フィルハーモニー交響楽団）、吹奏楽（シエナ・ウインド・オーケストラ）、伝統芸能（太鼓芸能集団 鼓童）、バレエ（牧阿佐美バレエ団）と、異なる分野の4つの芸術団体と事業提携し、年間を通じてそれぞれの分野のトップレベルの公演を地域の人たちに楽しんでいただいている。また、提携団体の奏者・演者や舞台制作の担当者によるワークショップや第一線で活躍しているアーティスト等によるアウトリーチ事業を積極的に展開し、地域の人たちがアーティストや舞台関係者と交流する機会を設けている。

■吹奏楽奏者養成プログラム

各事業はシエナ・ウインド・オーケストラの人材やノウハウを活かして実施しており、生徒や参加者にとってはプロの演奏家と接する機会により、演奏技術の向上や音楽を継続する動機づけとなっている。

「中学生のための吹奏楽クリニック」では区立中学校との日頃からの連携も活かしつつ、事前に学校側のニーズを把握し、調整をした上でシエナの団員を中学校に派遣した。これにより、学校側の要望や生徒のレベルに合わせた指導を行うことができた。

「シエナ de アン・コン！～アンサンブルコンテスト～」ではホールで吹奏楽のコンテスト等が行われている特性を鑑み、アンサンブルを組む吹奏楽演奏者に発表の場とスキルアップの機会を提供できた。演奏直後にはシエナの団員による講評を設けており、参加者からは今後の演奏活動に役立つと評価を得ている。

■バレエ公演制作アートマネジメント講座

今年度は感染症の影響により中止となったが、2018年から牧阿佐美バレエ団と協力し実施している。ホールで開催する牧阿佐美バレエ団の公演に合わせ実施することで、舞台制作各分野のプロの仕事を学び体験できる内容としている。

■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム

「東京フィル・親子で楽しむ“はじめてのオーケストラ”」は東京フィルハーモニー交響楽団と協力し、童話をモチーフにしたオリジナルの音楽劇や楽器紹介等の内容で毎年開催している。感染症の影響で公演は中止となったが、これまで培ってきたノウハウや協力関係もあり、比較的スムーズに動画配信に切り替えることができた。

「小中学校出前コンサート」では事業提携している4団体が、区内の小中学校へそれぞれ毎年2校ずつ訪問している。提携団体があることにより、毎年安定的にトップレベルの芸術鑑賞の機会を児童・生徒に提供することができている。

■バレエ普及啓発プログラム

各事業ともに牧阿佐美バレエ団と連携して行っているため、対象が異なるそれぞれの事業に適した人材を確保し、実施することができている。

「幼稚園バレエワークショップ」は区立幼稚園園長会の協力もあり、毎年1園ずつ、5年間継続して行っている。衣裳の展示や講師の美しい身のこなしも見てもらうことで園児を対象にバレエファンの育成を図った。

「バレエを楽しむ基礎知識講座」では普段接する機会のないプロのダンサーを招き、ホールで行われるバレエ公演への興味や関心を一層深くする機会となった。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

当ホールがある文京区では、全ての区立中学校に吹奏楽部があり、年1回当ホールで活動発表会（演奏会）を行っている。また、全国規模の吹奏楽のコンテストが行われているなど、吹奏楽奏者にとって縁のあるホールとなっている。その特性を鑑み、事業提携団体のシエナ・ウインド・オーケストラと連携し、未来の演奏（実演）家を育てる「吹奏楽奏者養成プログラム」を展開し、実演芸術の振興につなげている。また一方で、都心回帰により子育て世代を中心に転入者が増えており、子育て世代からのニーズである、子どもと一緒に楽しめる事業や子どもが文化芸術の体験をできる事業を提携団体と連携し積極的に行い、地域の文化芸術の発展に寄与している。

■吹奏楽奏者養成プログラム

「中学生のための吹奏楽クリニック」では音楽教諭一人で様々な楽器の取扱いや演奏技術について指導するには限界があるという、中学校教諭の意見を踏まえ、プロの演奏家による視点できめ細かな指導を行っている。生徒の技術向上に加え、上級生が下級生に有効なアドバイスができるようになり、部全体の活性化とレベルアップにつながっている。

「シエナ de アン・コン！～アンサンブルコンテスト～」は小学校、中学校、高等学校、大学・一般の4部門に分けて参加団体を募集し、実施している。出演団体はコンテスト前のアンサンブル・レッスンの受講と、コンテストでの審査員からの講評により、レベルアップを図ることができており、実演芸術の振興に寄与している。

今年度は感染症拡大防止対策のため一部内容を変更して開催した「吹奏楽3UPプロジェクト」は、吹奏楽部等で日頃から演奏に親しんでいる人の演奏技術の向上（Level up）や、かつて演奏していたがまた演奏を楽しみたいという人（Wake up）、楽器を手取るのは初めてという人（Pick up）をメインターゲットに実施するプロジェクトであり、地域における楽器演奏者の拡大・育成と、吹奏楽の裾野を広げることを目指し実施している。

■meet the music in Bunkyo 音楽普及プログラム

管弦楽、吹奏楽、伝統芸能の各分野の第一線で活躍し、大ホール公演を行っている各提携団体による「小中学校出前コンサート」では、子どもたちが普段通っている学校で、リラックスした環境で一流の演奏を聴き、アーティストと交流できる事業となっている。子ども時代に優れた演奏やアーティストにふれあう機会を提供することで、将来の地域における文化芸術の担い手を増やすことに寄与している。

■バレエ普及啓発プログラム

当ホールでは年間を通じて数多くのバレエ公演が行われており、区内にはバレエ教室も多く、習い事としてのバレエへの関心が高い。「幼稚園バレエワークショップ」「はじめてのバレエレッスン」は子どものための普及プログラムという位置づけで、まずはバレエを体験し、音楽に合わせて体を動かす楽しさを知ってもらい、関心を持つきっかけづくりとしている。また大人向けプログラム「バレエを楽しむ基礎知識講座」は学習意欲の高い地域の方々にはバレエの魅力やPRすることで、新たなバレエファンを創出しており、文化芸術振興の一助となっている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

当財団では事業・組織強化のため経営計画を策定し、その確実な遂行のため、毎年財団全体で進捗状況を確認し、達成度を評価している。結果を理事会、評議会で報告し、意見聴取の上次年度の事業計画に反映させており、計画事業は継続的に検証、改善され機能強化が図られている。

今回の助成事業も経営計画に基づいた事業であり、助成を得て実施することで廉価、または無料で質の高い事業を地域の人々に提供でき、ホールの機能強化につながった。

【経営計画】「区民ニーズや社会環境の変化に応じた創造的な事業の展開」

- 1) さまざまな世代の方が参加できる、多様なプログラムや伝統芸能などを含め、新たな事業を展開する。
- 2) 区民が気軽に文化芸術に参加するきっかけづくりを継続的に行う。

バレエ関連事業では、様々な切り口で事業を展開することで、子どもから大人まで参加できる、地域における文化芸術振興の拡大につながる事業となっている。また、財団内の別部署の生涯学習分野とも連携しながら事業を展開しており、シビックホール連携講座という形で幅広い世代の方にバレエを親しんでもらえるようにしている。こうした組織内で連携して活動を行うことも、財団全体の機能強化につながっている。

さらに、バレエ以外でも吹奏楽3upプロジェクトにおいては、世代に関係なく吹奏楽愛好者の裾野拡大を目的としており、誰でも無料で参加できるイベントとなっている。

【経営計画】「提携団体との連携による事業の一層の充実と深化」

- 1) これまでの鑑賞事業やアウトリーチ事業のほか、吹奏楽の楽器指導やアンサンブルコンテスト等の提携団体ならではの密度の濃い通年プログラムを実施する。

助成事業は、当財団が事業提携する芸術団体との協力のもとで行われた事業が多く、提携団体の協力により、質の高いプログラムが実現し地域の人と文化芸術をつなぐ事業となった。

【経営計画】「経営基盤の強化、安定化」

- 1) 財団の事業目的は公益の実現であり、公益目的事業を中心に事業展開すると同時に、効率的な運営に努め、その結果として余剰財源が生じた場合は、事業を通じ広く地域社会に還元する。

助成を得ることは経営基盤の強化、安定化に不可欠である。今回の助成により経営的な裏付けを得て無料または廉価で提供でき、当財団が持つ資源を広く地域に還元できた。